

オシドリがオタマジャクシを捕食か？

中野晃生

株式会社セルコ。〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-5-2 E-mail: a-nakano@serco.co.jp

はじめに

オシドリ *Aix galericurata* は、日本、ロシア沿海州地方、朝鮮半島、中国、台湾に生息しているカモ科の鳥類である。日本における本種の食物は、シイ・カシ類の堅果、イネ科植物の芽、種子等の植物質が主であり、その他、甲虫類のゲンゴロウ科、アメンボ科、トンボ目やトビケラ目の幼虫といった水生昆虫類、魚類が知られている(清棲 1978, 黒田 1939)。

筆者は、本種が水田においてカエル目の幼生(以下オタマジャクシ)を捕食していると思われる採食行動を観察したので報告する。

観察地および観察方法

今回、調査を行なった場所は、島根県南部に位置する島根県川本町(34° 59' N, 132° 29' E)内の集落である。当地域は比較的広い谷(幅200m程度)に沿って水田、畑等の耕作地および宅地が開かれている。また、耕作地周辺の林と耕作地とは、接しており、その間を河川が流れている。周辺に分布している林は、コナラ *Quercus serrata*、クリ *Castanea crenata* 等の広葉樹を主体とする夏緑広葉樹林、アカマツ *Pinus densiflora* の林およびスギ *Cryptomeria japonica*、ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* が植林された針葉樹林である。

観察は、2003年 2月上旬～6月下旬に各月 2回ずつ、7月上旬に 1回、各回 3日間、午前 8時から午後 4時にかけて行なった。各日とも、水田脇より、飛来した個体を10倍の双眼鏡及び30倍の望遠鏡で観察した。

結果および考察

調査地域およびその周辺へのオシドリの飛来を確認したのは、水田内に雪が残る 3月下旬からであった。3月下旬には、水田内の雪解け水が溜まった場所で採食していたが、4月上旬以降には水田内の雪が消失し、水が溜まりはじめるとともに全域を利用するようになった。3月下旬～4月下旬にかけては、雌雄同時に飛来したが、5月上旬以降は雌 1羽のみが飛来するようになった。また、6月下旬以降は飛来しなくなった。なお、オシドリが飛来した水田は、ほとんどの場合、観察地点脇の水

2003年 8月14日 受理

キーワード: オシドリ, 捕食, オタマジャクシ

田ではなく、100～500m程度離れた水田であり、観察地点脇の水田に飛来したのは、5月22日のみであった。

2003年5月22日の午前11時10分頃にオシドリの雌が1羽、観察地点脇にある水田内に飛来し、植えられたイネのあいだを時折水面に嘴をつけて泳ぎながら畦に生育している草を採食しはじめた。その後、水田内を泳ぎ、時折、水面に嘴をつけ、水面上に浮いているウキクサ、草刈により水田内に入った草を採食していたが、そのうち、嘴を水中に差し込んだまま、何かを2m程追いかけてまわし、捕らえ、飲み込んでいた。何を捕らえているのかははっきりと確認はできなかったが、この水田内に生息していた動物は、オタマジャクシ類、サカマキガイ *Physa acuta* あるいはヒメモノアラガイ *Austropeplea ollula* と考えられる小型の貝類、アメンボ科の数種、ミズカマキリ *Ranatra chinensis*、タイコウチ *Laccotrephes japonensis* の水生昆虫であった。しかし、オタマジャクシ、アメンボ科の数種を除くといずれの種もすばやい行動をとる種ではなかった。また、嘴を水中に差し込んだまま追いかけてまわしていたことから、水面上を移動するアメンボ科の数種ではないと考えられ、オタマジャクシを捕食していたものと考えられた。観察時に、この水田内に生息していたオタマジャクシは、ニホンアマガエル *Hyla japonica*、ニホンアカガエル *Rana japonica*、トノサマガエル *R. nigromaculata*、シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii* の4種であったが、どの種が捕食されていたのかは確認できなかった。しかし、個体数の多さおよび大きさからみて、全長2.5cm程度の大きさをしているニホンアマガエルおよびニホンアカガエルのオタマジャクシが捕食されていたものと考えられた。

オシドリの食性については、清棲(1978)、黒田(1939)によれば、植物質を主としており、イネ *Oryza sativa*、コムギ *Triticum aestivum*、エノコログサ *Setaria viridis* 等の種子、クヌギ *Quercus acutissima*、ミズナラ *Q. crispula* 等の堅果を好んで食物とし、動物質では、昆虫類の水生昆虫のゲンゴロウ科の成虫および幼虫、トビケラ目、センブリ類、トンボ目の幼虫等の水生昆虫、クモ類、カタツムリ類、魚類を食物とするとしている。Clamp & Simmons(1977)によれば、旧ソビエト連邦では、春期の食物として昆虫類とその幼虫が最も好まれ、その他、カタツムリ類、魚類(死体を含む)等としており、秋期になるとシイ・カシ類を最も好むとしている。また、ロシアの極東南部では、Labzyuk(1985)により春と夏の食物として、カエル、魚、陸生腹足類、ミミズ、昆虫のような動物質が多いことが、Shibnev(1985)により夏にサンショウウオおよびカエルを追い出して捕食していることが報告されている。

最後に本報告をまとめるにあたり、原稿を読んでいただき、有意義な指摘を頂いた石本あゆみ氏に感謝申し上げます。

引用文献

- Cramp, S (chief ed). 1977. Handbook of the Birds of Europe the Middle East and North Africa Vol. 1. pp. 465-470. Oxford Univ. Press, Oxford.
- 清棲幸保. 1978. 増補・改訂版 日本鳥類大図鑑 II. pp. 865-868. 講談社, 東京.
- 黒田長禮. 1939. 雁と鴨. p. 34. 修教社書院, 東京.
- Labzyuk, V.I. 1985. The mandarin duck *Aix galericulata* (L) in basin Avvakumovka River (Primorye). Rare and endangered birds of the Far East. pp. 89-94. [邦訳: アフワクモフカ川(プリモリーエ)におけるオンドリ. 藤巻裕蔵(編著). 2000. 日本とロシア極東のオンドリ. pp. 38-42. 帯広畜産大学野生動物管理学教室, 帯広市.]
- Shibnev, Yu.B. 1985. The current status of *Aix galericulata* and *Mergus squamatus* on Bikin River. Rare and endangered birds of the Far East. pp. 95-99. [邦訳: ビキン川におけるオンドリとコウライアイサの現状. 藤巻裕蔵(編著). 2000. 日本とロシア極東のオンドリ. pp. 42-47. 帯広畜産大学野生動物管理学教室, 帯広市.]

Did a Mandarin Duck catch a tadpoles ?

Akio Nakano

Serco. Co. Shibuya2-5-2, Shibuya-ku, Tokyo 150-0002, Japan

A female Mandarin Duck *Aix galericulata* was observed to chase and prey on animals in the water of a rice field in Kawamoto-cho, Shimane pref. (34° 59' N, 132° 29' E) on May 22, 2003. Based on the abundance of tadpoles in the rice field and the chasing behavior of mandarin duck, the prey eaten by this mandarin duck is considered to be tadpoles (*Hyla japonica* or *Rana japonica*).

Key words: *Aix galericulata*, *Mandarin Duck*, *predation*, *tadpole*